男女のよりよいパートナーシップを

ゆうCan

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2017年 57号

男女共同参画に関する意識と生活実態調査結果をお知らせします

区では、「杉並区男女共同参画行動計画（平成27～29年度）」に基づき、男女共同参画に向けた様々な取組を行っています。29年度でその計画期間が終了することから、計画の改定に向け、区民・区内事業所の男女共同参画に関する意識と生活の実態を把握するため2種類のアンケート調査を実施しました。

このたび調査の結果がまとまりましたので、その一部をご紹介します。

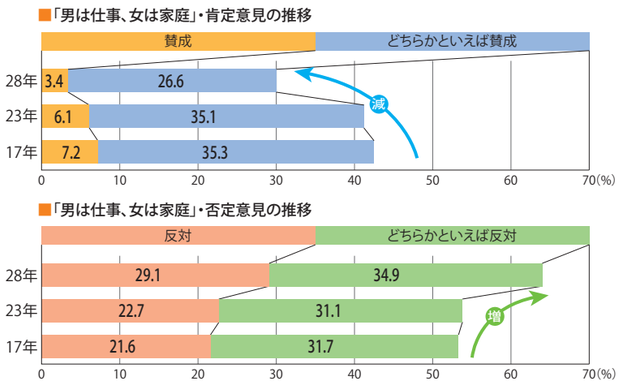
※今回の調査報告書は区公式ホームページでご覧いただけます。

■調査概要

	区民調査	事業所調査
調査対象	区内在住の18歳以上の区民	区内の従業員5人以上の事業所
配布数	4,000件	2,000件
調査方法	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成28年10月3日～25日	平成28年10月6日～25日
回収状況	1,425件（回収率35.8%）	485件（回収率25.4%）

区民調査

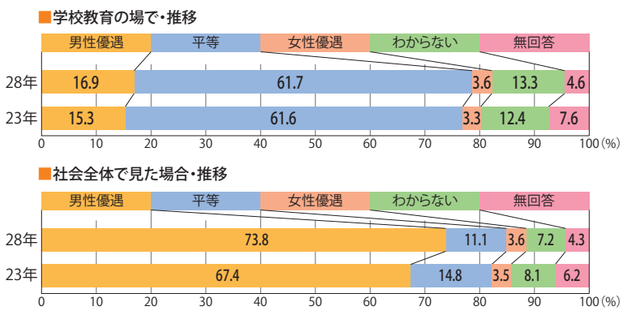
① 男性と女性の役割分担意識



Q 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。

今回の調査では「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する意見が30.0%（賛成3.4%＋どちらかといえば賛成26.6%）となっており、23年調査の肯定する意見41.2%（賛成6.1%＋どちらかといえば賛成35.1%）、17年調査の肯定する意見 42.5%（賛成7.2%＋どちらかといえば賛成35.3%）に比べ、10%を超える減少となっています。男性と女性の性別による役割分担意識は、少しずつ薄れてきているといえます。

② 男女平等の状況



Q 今の日本では、男性と女性が平等になっていると思いますか。

「学校教育の場」では、今回の調査・23年調査ともに「平等」が60%を超えていますが「社会全体で見た場合」には、「男性優遇」が73.8%と23年調査より増加し、「平等」が11.1%に減少しています。今後も、社会に向けた幅広い男女平等意識の啓発が必要です。

男女平等推進センターからのお知らせ

～女性も男性もすべての人が個性や能力を発揮し、輝くための活動と学びの場～

図書コーナー

ご活用ください!

絵本の貸出しを新しく始めました!

ぜひ親子でご利用ください。貸出手続後ならば、乳幼児室で読んでいただくこともできます。乳幼児室には新しい紙芝居も入りました。お待ちしています!

『終わった人』 新着図書

〔著者〕内館 牧子　講談社

定年後の生き方、家族とのつながり、生きがいとは何か、など、シニア世代だけでなく現役世代にとっても将来避けられないテーマが描かれています。すべての年代に向けての応援歌です。

『長いものに巻かれるな! 苦労を楽しみに変える働き方』 新着図書

〔著者〕渥美 由喜　文芸春秋

ダイバーシティコンサルタントとしての研究だけでなく、プライベートでの育児・介護などさまざまな困難を乗り越え来た経験から導き出した実践的な仕事術を紹介します。

『学校・病院で必ず役立つLGBTサポートブック』 新着図書

〔著者・編者〕はた ちさこ　藤井 ひろみ　桂木 祥子　保育社

さまざまな生きづらさを抱えている青少年期の当事者が適切なサポートやケアを受けられるように、学校・医療関係者にとって欠かせない情報が凝縮されています。一般の人にも読んでもらいたい一冊。

わたしらしく生きられないと感じたときに

ご相談はすべて無料です

ひとりで悩まずご相談ください。専門の女性相談員が相談をお受けします。面接による相談（要予約）も行っています。

一般相談
TEL.03-5307-0619
家族、生き方、人間関係、ストーカー、セクハラなど

DV相談
TEL.03-5307-0622
配偶者、パートナー、恋人からの暴力

法律相談
TEL.03-5307-0619（毎週木曜日午後、月1回夜間相談）
離婚、養育、財産分与など、女性弁護士が面接で相談をお受けします。
対象は杉並区在住・在勤・在学の女性。お電話で予約をお受けします。

一般相談・DV相談　平日9時～17時（祝日・年末年始を除く）

ゆう杉並　杉並区立男女平等推進センター

〒167-0051　杉並区荻窪一丁目56番3号　TEL.03-3393-4410

■開館時間
9:00～17:00

■休館日
月曜日（祝休日の場合は、翌日）
12月28日から1月4日まで

●関東バス　荻窪駅南口発
シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分

●杉並区南北バス「すぎ丸」けやき路線
JR阿佐ヶ谷駅→井の頭線浜田山駅
「善福寺川緑地」下車→徒歩10分

●東京メトロ丸ノ内線
「南阿佐ヶ谷駅」下車　徒歩15分

※駐車場はありません。

男女平等推進センターへの道順はこちらも参照してください→

杉並区立男女平等推進センター情報誌「ゆうCan」第57号　平成29年3月　発行：男女平等推進センター
【問合せ先】　〒166-8570　杉並区阿佐谷南1-15-1　杉並区 区民生活部管理課　男女共同・犯罪被害者支援係　TEL：(03) 5307-0326（直）

事業所調査

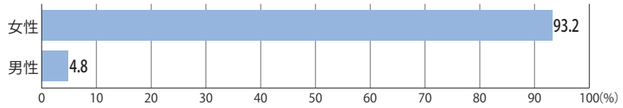
① 育児休業の取得率

区内事業所における育児休業の取得率は、女性が93.2%、男性が4.8%となっており、男性と女性で大きな差があります。

男性の育児休業取得は、パートナーである女性に偏ることが多い育児や家事の負担を夫婦で分かち合うことになり、女性の出産意欲や就業の継続にもつながります。

国は、男性の育休取得率を2020年までに13%にする目標を掲げています。

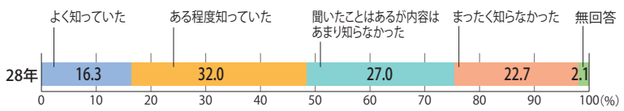
■区内事業所における育児休業取得率



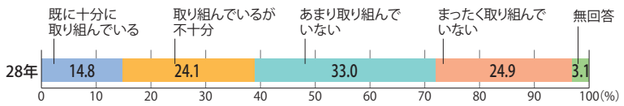
② ワーク・ライフ・バランスの認識と現状

Q ワーク・ライフ・バランスについて、今までどの程度認識していましたか。また、現状をどのように認識していますか。

■ワーク・ライフ・バランスの認識度



■ワーク・ライフ・バランスに対する現状



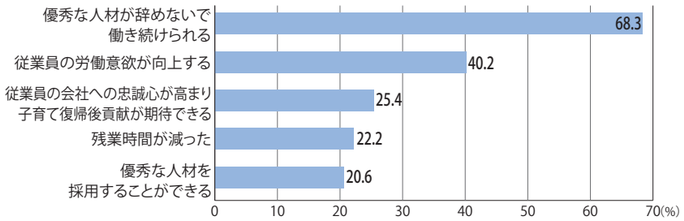
ワーク・ライフ・バランスの意味の認識度は48.3%（よく知っていた16.3%＋ある程度知っていた32.0%）であり、まだまだ浸透していないことがわかります。

ワーク・ライフ・バランスの現状は、「取り組んでいる」が38.9%（既に十分に取り組んでいる14.8%＋取り組んでいるが不十分24.1%）であり、事業所の今後の取組が求められています。

③ ワーク・ライフ・バランスの取組効果

Q ワーク・ライフ・バランスに取り組んで、どのような効果がみられますか。

■ワーク・ライフ・バランスの取組効果・上位５つ



ワーク・ライフ・バランスの取組効果としては、「優秀な人材が辞めないで働き続けられる」が68.3%と非常に多い結果となりました。ワーク・ライフ・バランス推進に積極的な取組は、優秀な人材の流出を防ぐ効果があり、事業所にも大きなメリットがあるようです。

また、「従業員の労働意欲が向上する」が40.2%と次いで多く、従業員にもたらす効果は高いと言えます。

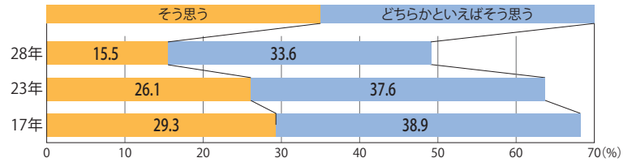
男女共同参画行動計画の改定について

「杉並区基本構想（10年ビジョン）」では、10年後の将来像を「支えあい共につくる　安全で活力あるみどりの住宅都市　杉並」と掲げています。その理念のもと、誰もが個性と能力を十分に発揮していきいきと輝ける社会をつくることをめざし、今回の調査結果を踏まえ、広く区民や事業所のご意見をいただきながら平成29年度に改定作業を行っていきます。

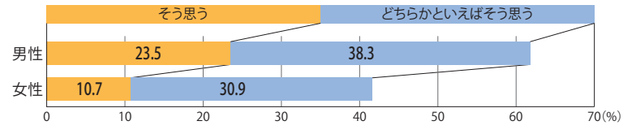
区民調査

③ 子育てに対する男女平等意識

■男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい・推移



■男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい・男女別（28年）

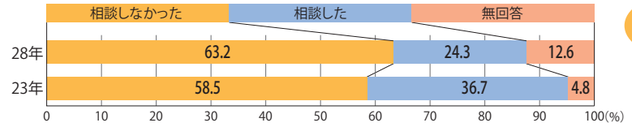


Q あなたの意識に最も近いものをお答えください。

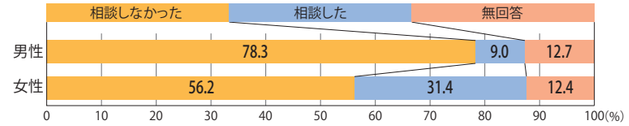
「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」という考え方を肯定する意見が49.1%（そう思う15.5%＋どちらかといえばそう思う33.6%）となっており、23年調査の63.7%、17年調査の68.2%から減少しています。男女別では、男性の方が子育てに性別らしさを求める傾向が強いことがわかります。

④ DV被害者の相談の有無

■相談の有無・推移



■相談の有無・男女別（28年）



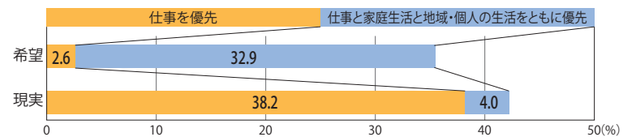
Q 配偶者やパートナーからDV行為を受けたことを誰かに相談しましたか。

「相談しなかった」人は、23年調査では58.5%でしたが、今回の調査では63.2%となっており、どこにも相談をしない潜在的なDV被害者が増加しています。また、男女別では、男性の方が女性より相談をしない傾向が強いことがわかります。

⑤ ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

Q 生活の中での、仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度について、あなたの希望と現実に近いものをお答えください。

■ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（28年）



「仕事と家庭生活と地域・個人の生活※をともに優先したい」との希望は32.9%ありますが、現実にはわずか4%しか実現できていません。逆に、「仕事を優先したい」との希望はわずか2.6%ですが、現実には38.2%が仕事優先の結果となっています。

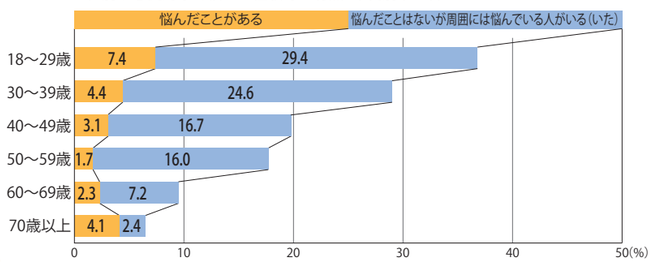
ワーク・ライフ・バランスの希望と現実に大きな差があることがわかります。

※地域・個人の生活=地域活動・学習・趣味・付き合い等のプライベートな時間

⑥ 性的マイノリティに関する悩み

Q 今までに自分の性別や恋愛対象などについて悩んだことはありますか。または、周囲の人で悩んでいる人はいましたか。

■性別や恋愛対象で悩んだ経験等の有無・年代別（28年）



「18～29歳」で「悩んだことがある」割合が7.4%と最も高く、「18～29歳」では約13人に1人が自分の性別や恋愛対象について悩んだ経験があるとの結果となりました。

また、「悩んだことはないが周囲には悩んでいる人がいる（いた）」は年代が若いほど高い割合となっており、若年層ほど周囲に悩んでいる人が多く見られるようです。